

トマト共選場の整備

1 北斗市のトマトについて

- ・ 北斗市のトマトは市の野菜の中でも主力産品
- ・ 全国的にトマト出荷量が減少する9～11月に安定供給ができ、市場からの需要が高い
- ・ 市は長年に渡り設備導入の補助を行うなど支援をしている
- ・ 若手生産者も多く、将来性のある産地として市場から高評価を得ている
- ・ 中野通にある共同選別施設・集出荷施設が安定供給を支えている

2 市内農業の課題

- ・ 生産者の高齢化が進み、担い手（パートも含む）は減少している
- ・ 物価高騰により経費が増加し、収益確保がより重要となっている

3 共同選別施設の課題

- ・ 経年による能力低下や故障により、操業時間の延長や手作業が増加している
- ・ 選別技量のあるパート（共選パート）が不足している

4 整備事業の概要

- ・ 共同選別施設を増築し、最新の選別機械等を導入する
- ・ 北斗市のほか、森町・七飯町・木古内町・知内町のトマトも受入れ、広域的な選別・出荷体制を構築する

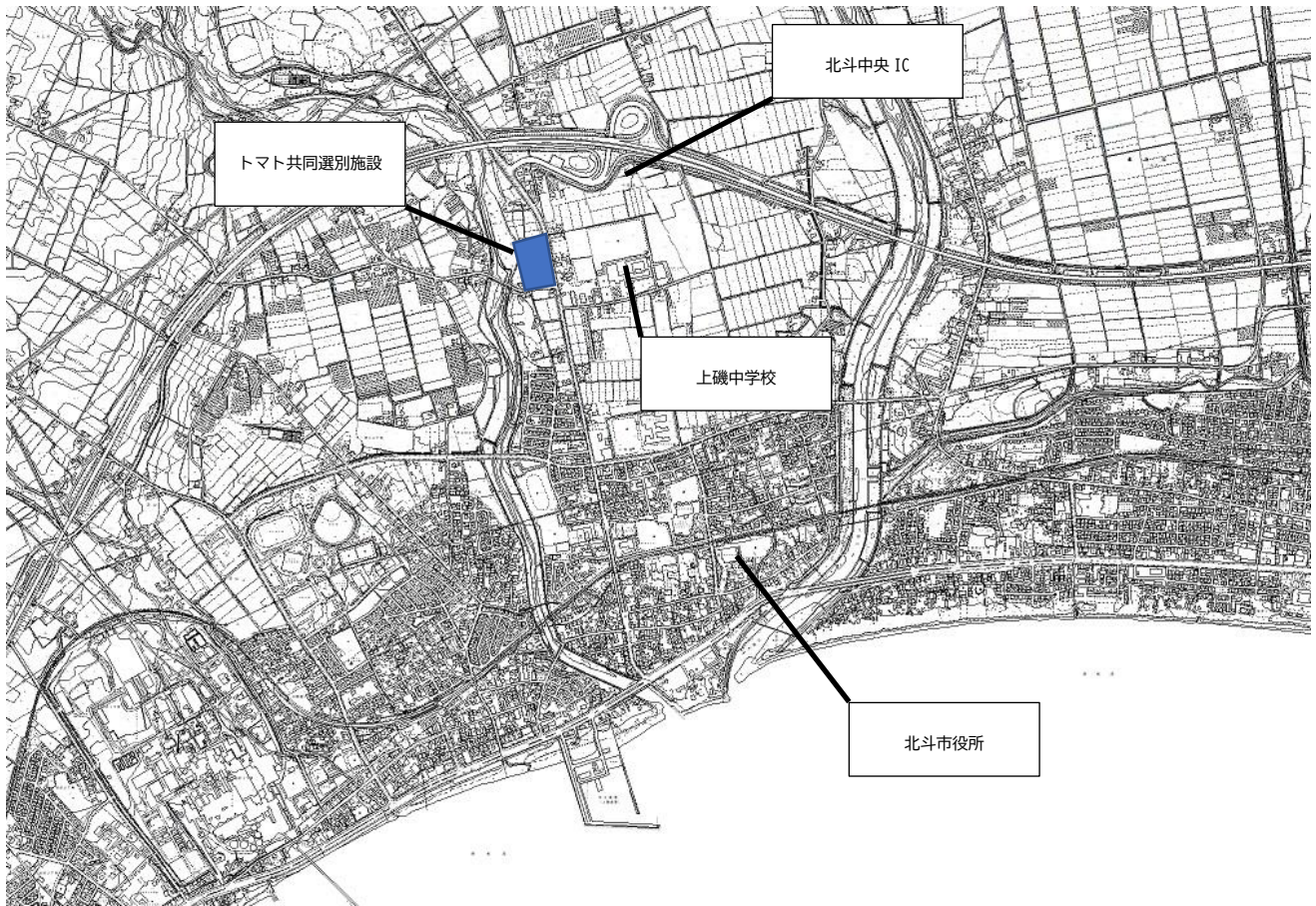
5 期待される効果

- ・ 選別技量の有無にかかわらず人材確保が可能となり、パート作業の省力化が図れる
- ・ 近隣市町のトマトも含めた品質統一によりブランド力が向上する
- ・ ブランド力の向上で販売額がアップし、出荷経費が抑制され、生産者の所得向上につながる
- ・ 4～12月の長期出荷と販売量の確保により、大手量販店との取引が可能となる
- ・ 見学スペースやマルシェなどのイベントを通じて、農業を身近に感じ関心が高まることで担い手が増加する
- ・ 出荷作業の省力化や出荷時間の短縮により、栽培時間が確保され秀品率が向上する

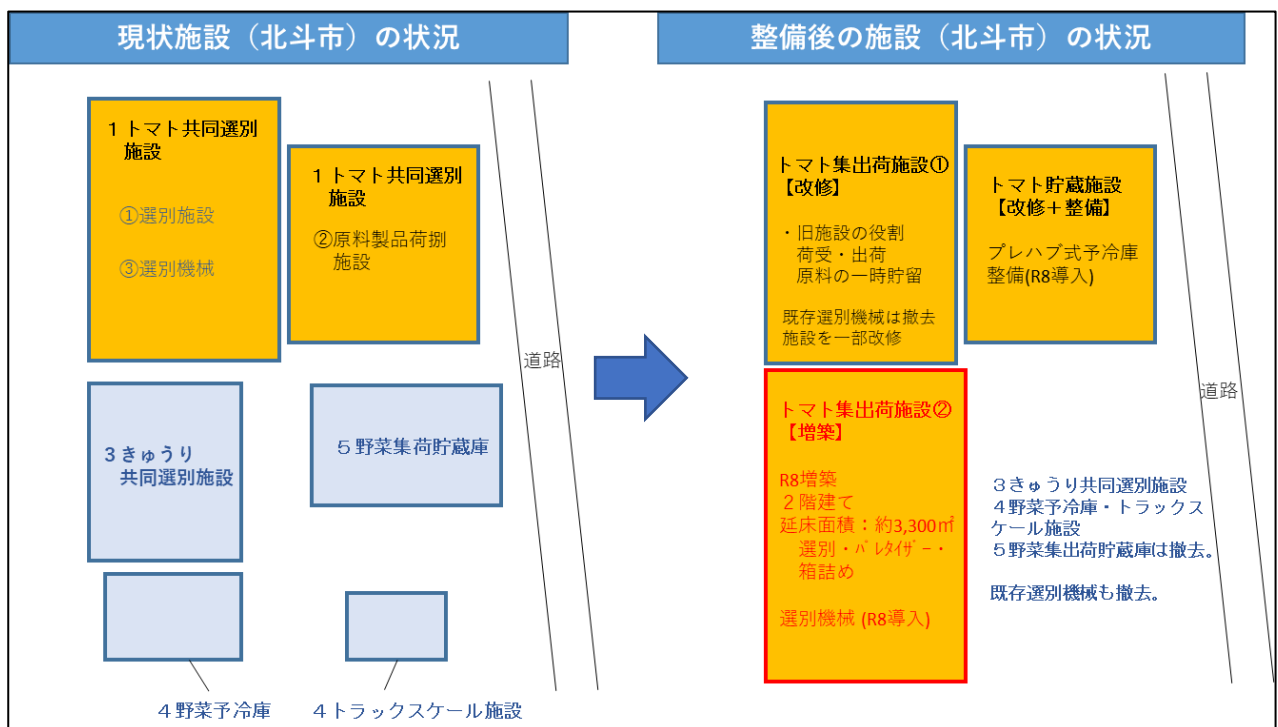
6 国からの補助

- ・ 共同選別施設の建物、選別機械には国からの補助（補助率1/2）を受け整備・導入する
- ・ 市や生産者の負担軽減を図りながら整備を進めている

全体図



拡大図



新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)事業 効果検証

事業名	トマト共同選別施設の整備に伴う地域拠点整備事業			事業期間	令和7年度～令和8年度
実績額 (見込額)		令和7年度	令和8年度	合計	
	事業費総額	59,453,000 円	(1,664,530,000) 円	(1,723,983,000) 円	
	交付金額	29,726,500 円	(832,265,000) 円	(861,991,500) 円	

目的 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・北斗市の基幹作物の1つであるトマトの共同選別施設を増築し、指定管理を行う予定の新函館農業協同組合圏内のトマト集約拠点とする計画。長期間のリレー出荷を強みに産地優位での取引が可能となり、トマト生産者の農業所得向上につなげることを目指す。 ・選別施設内の経験値を要した作業を機械化することで、作業に従事するハードルが下がり、今までよりも就労しやすい環境となることから、農業就業人口の増加を目指す。
------------	--

事業概要	<p>トマトの共同選別施設を増築し、新函館農業協同組合が管理する集出荷拠点として、長期間のリレー出荷を可能とする体制を構築。最先端の高性能機械を導入することにより選別作業の省力化と均一化を図り、安定した取引と所得向上就業環境の改善を進める。</p>
------	--

課題 及び 取組	<p>【課題】</p> <p>1. 農業所得の減少、伸び悩み 2. 農業者の高齢化による生産・出荷能力の低下、市場価値の低下</p> <p>3. 小規模で分散した出荷体制では農業経営を維持できない</p> <p>【取組】</p> <p>1. トマトの高品質化及び広域的な出荷体制確立による販売力の強化</p> <p>2. トマト共同選別施設の拠点化に伴う運営コストの効率化</p>
----------------	---

取組内容	<p>【事業の進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施設計委託(48,356,000円)、地質調査委託(10,208,000円)、確認申請(889,000円) <p>【課題及び取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の所得向上のため、トマト生産部会にて厳格な栽培基準を遵守し、一定基準を満たした規格品の生産に取り組んだ。 ・高齢化に伴う生産・出荷能力の低下に対応するため、認定農業者制度の活用を促進し、経営発展に必要な資金導入を支援した。また、栽培環境の向上に向け、園芸施設や自動巻上機などのスマート農業機械の導入を支援し、省力化と生産性向上による産地基盤の維持・強化を図った。 ・近年の高温による品質・収量低下への対策のため、新函館農業協同組合による遮光資材等の導入支援や、渡島農業改良普及センターによる栽培技術指導など、関係機関と連携し取り組んだ。 ・就農後間もない新規就農者や研修生を対象に、巡回や面談を通じて現状把握及び意見交換を定期的実施した。 ・農業をより身近に感じていただけるよう、トマトをはじめ地元農産物のマルシェの開催や新たなゆるキャラの製作などについて、新函館農業協同組合と協議を進めている。
------	---

重要業績評価指標 (KPI)											
指標名	単位	事業 開始前	令和7年度 増加分	令和8年度 増加分	令和9年度 増加分	令和10年度 増加分	令和11年度 増加分	令和12年度 増加分	令和13年度 増加分	増加分 合計額	
トマト生産農業者の 平均農業所得	万円	目標値	467.00	9.62	7.60	8.00	8.00	8.00	8.00	57.22	
		実績値		344.46						344.46	
		コメント	トマトのkg単価が1.4倍となったため大幅に増加した。								
農業就業人口の 増加	人	目標値	1,105.00	25.00	25.00	50.00	0.00	0.00	0.00	100.00	
		実績値		-19.00							-19.00
		コメント	60代の農業者の減少が多かった。								
野菜の年間取扱高 増加	億円	目標値	31.97	1.04	0.55	1.04	0.48	0.48	0.48	4.55	
		実績値		0.75							0.75
		コメント	トマトの収益が増加したものの、長ねぎの収量と単価が減少したため目標値には届かなかった。								
安定的な出荷先 増加数	箇所	目標値	3.00	2.00	5.00	7.00	2.00	2.00	2.00	22.00	
		実績値		2.00							2.00
		コメント	2件増加した。								

KPI評価	B	A:大きな事業効果があった B:事業効果があった C:事業効果がみられない
-------	---	---------------------------------------

今後の方針	<p>【トマト生産農業者の平均所得農業所得・野菜の年間取扱高の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマトの品質向上と収量確保を図るため、防除の徹底や暑熱対策を継続するとともに、生産技術の向上に向けた支援を実施する。 ・産地の生産基盤強化に向け、市、新函館農業協同組合、渡島農業改良普及センターが連携し、園芸施設やスマート農業機械の導入支援及び技術指導を継続する。 ・トマト共同選別施設の供用開始後は、集出荷機能の集約による効率化と広域的な販売体制の構築を進め、有利販売による生産者所得の向上を目指す。 <p>【農業就業人口の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北斗市地域担い手センターを中心に、新規就農者やUIターンによる就農希望者への支援を継続し、地域農業を担う人材の確保・育成を進める。 <p>【安定的な出荷先の増加数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト共同選別施設の指定管理者である新函館農業協同組合を中心に、既存取引先との連携強化及び新たな販売先の開拓を進めるとともに、安定した出荷数量の確保により継続的な取引関係の構築を図る。
-------	---

外部委員からの意見等	・ ・ ・
------------	-------------